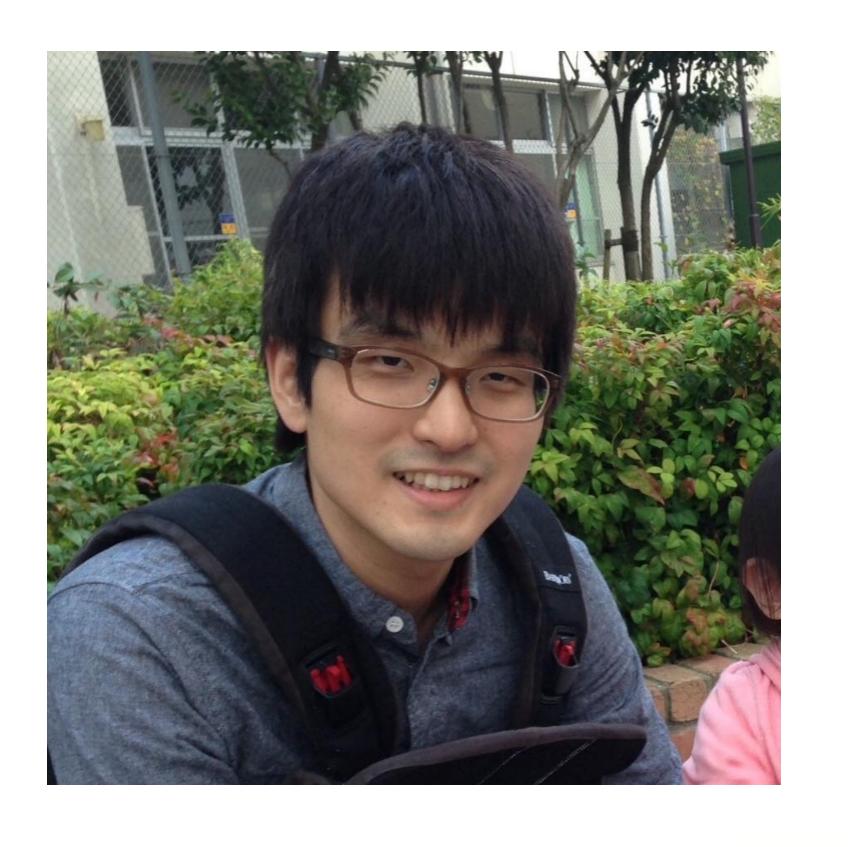
Ruby Way OpenStack

ペパボにおけるOpenStack基盤開発でのRuby活用について

GMO Pepabo, Inc. Uchio Kondo



GM0/11.11.



近勝うちお

- > GMOペパボ所属
 - > 技術基盤チーム
 - > 福岡支社勤務
- > Fukuoka.rb
- > RailsGirls Fukuoka #1 総合雑用/コーチまとめ

- > 東三河の人
- > 大学入学とともに東京へ
- > 2013年から福岡
- > 名古屋じゃないもんだいね

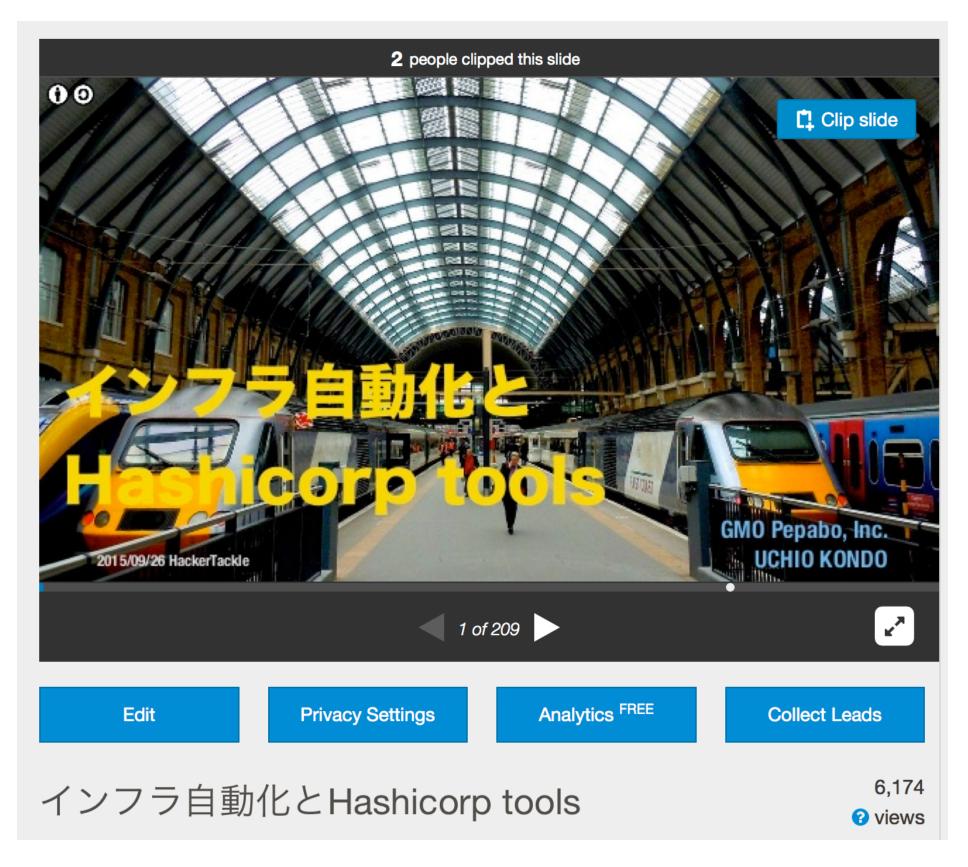


島根とのご縁

- > 母方の実家は旧邇摩郡仁摩町る
 - > 松江は学生以来です
 - > 家によく隠岐島のウニの 瓶詰がありました



- > Ruby / Golangを少々
- > Fluentd / InfluxDB
- > Puppet / Docker
- > Hashicorp tools
- > OpenStack

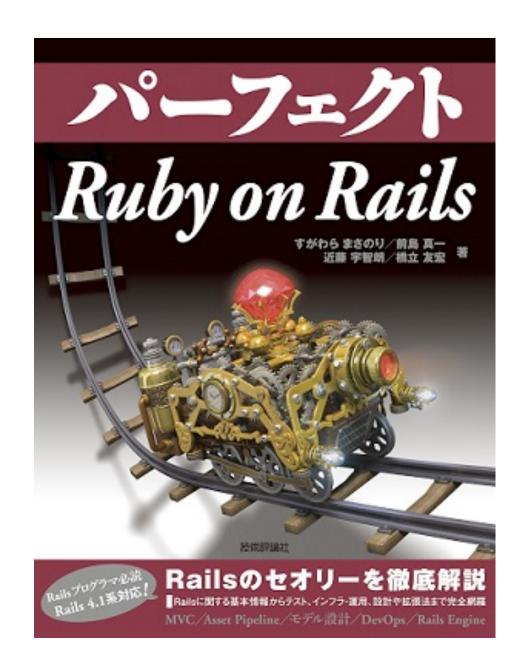


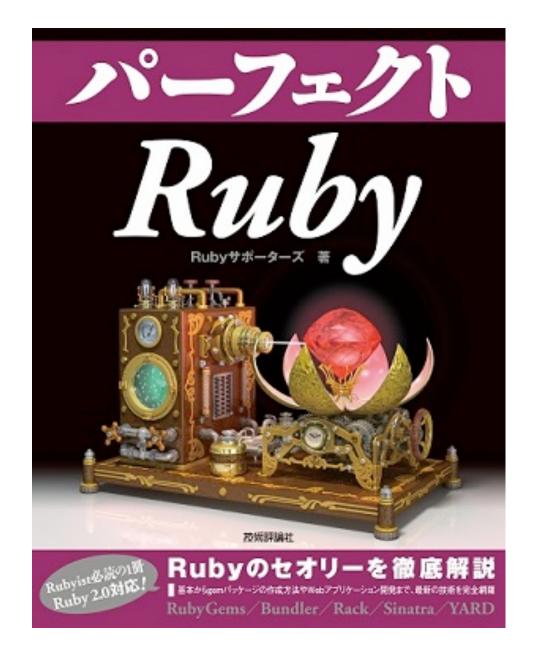
http://www.slideshare.net/udzura/hashicorp-tools

7 years old Rubyist

- > Rails 2.1.0 ごろからのルビースト(2008 ~)
- > Rubyをこじらせて著作あり
 - > Web+DB Press Ruby連載(2012 ~ 2014)
 - > パーフェクトRuby (2013)
 - > パーフェクトRails (2014)







Fukuoka.rb



店舗検索:福岡県 福岡市中央区で検索した結果(13件)





天神地下街店

福岡県福岡市中央区天神2丁目地下0号天神地下街

詳細

メディアモール天神店

福岡県 福岡市中央区 天神1-10-13 天神MMTビル 1F

福岡パルコ店

福岡県 福岡市中央区 天神2-11-1 福岡パルコ新館

IWATAYA本店本館店

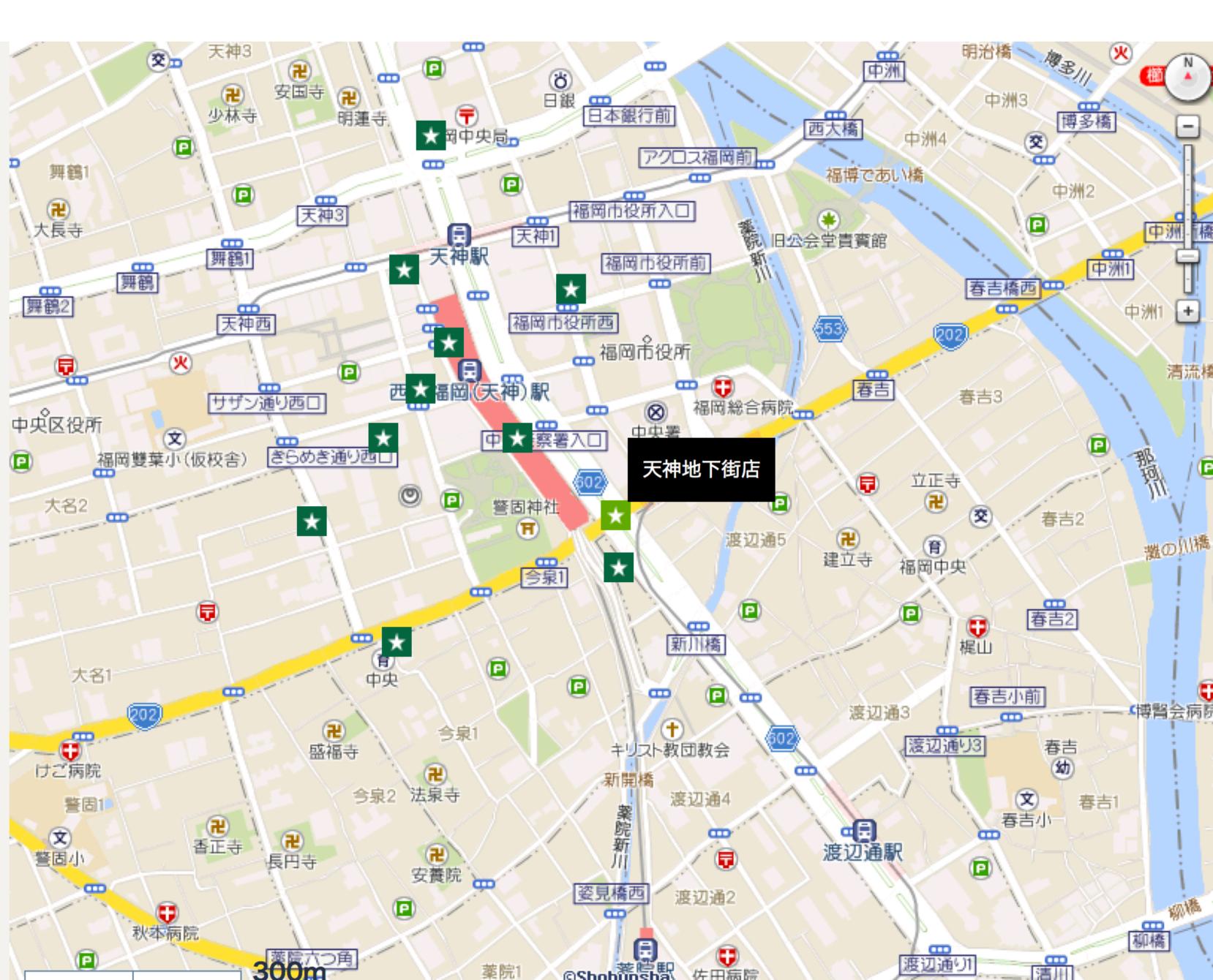
福岡県 福岡市中央区 天神2-5-35 岩田屋本店本館 1 F

ミーナ天神店

福岡県 福岡市中央区 天神4-3-8 ミーナ天神

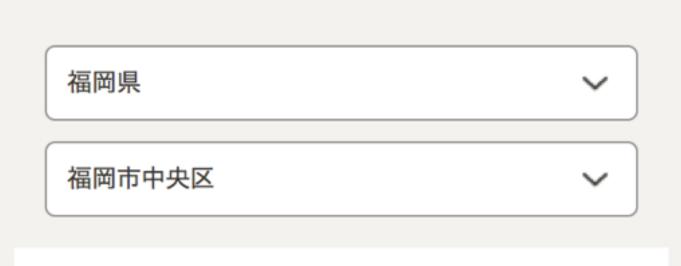
天神VIORO店

福岡県 福岡市中央区 天神2-10-3 天神VIORO



店舗検索:福岡県 福岡市中央区で検索した結果(13件)





天神地下街店

福岡県福岡市中央区天神2丁目地下0号天神地下街

詳細

メディアモール天神店

福岡県 福岡市中央区 天神1-10-13 天神MMTビル 1F

福岡パルコ店

福岡県 福岡市中央区 天神2-11-1 福岡パルコ新館

IWATAYA本店本館店

福岡県 福岡市中央区 天神2-5-35 岩田屋本店本館 1 F

ミーナ天神店

福岡県 福岡市中央区 天神4-3-8 ミーナ天神

天神VIORO店

福岡県 福岡市中央区 天神2-10-3 天神VIORO





Fukuoka.rb コミュニティについて プロフィール編集



イベント

36

メンバー

136

≥お問い合わせ



Fukuoka.rb #33 #fukuokarb

② 2015-04-16 (木) 19:00 - 21:00



参加者









近永 智之



MATSUMOTO, Ryos... f ♥ 0



近藤 うちお fy 0

Fukuoka.rb x 2/1%—

- > @nagachika (Rubyコミッタ, 2.2リリースマネージャ)
- > @matsumotory (mod&ngx_mruby)
- > @k1Low (awspec)
- > @morygonzalez (清貧会所属)
- > @h_demon (Ember.jsアイドル)
- > @udzura (Puppetおじさん)
- > などなど…

RailsGirls Fukuoka #1



http://blog.railsgirls.jp/post/128691554417/rails-girls-fukuoka-1



PEPABO WiMAX

13/18 Album minne





インフラでは







OpenStack



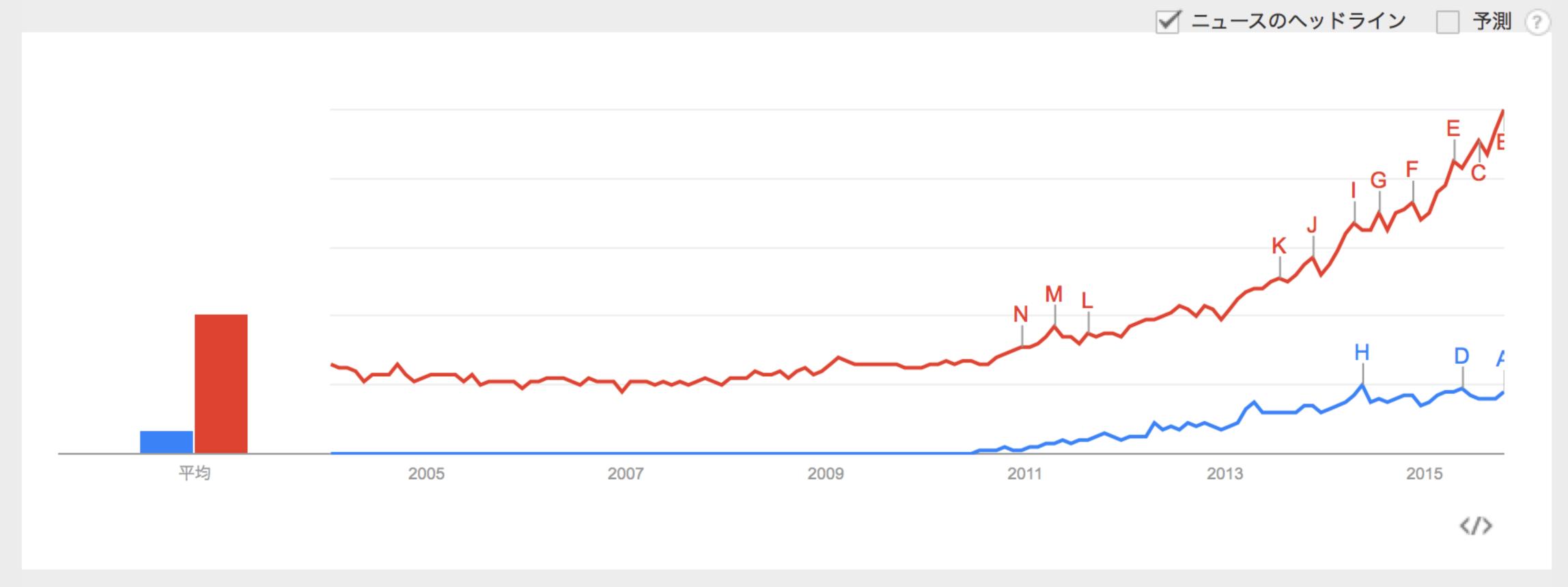
* python*

openstack 検索キーワード

aws 検索キーワード

+キーワードを追加

人気度の動向 ②



google trendTM

今日の発表のターケット

ターゲットのまえに

- > OpenStack利用者といっても
- > OpenStack自体を運用提供するひと
 - > Rackspace社、GMOインターネットなど
- > OpenStack基盤を開発者として利用するひと
 - > mixi、drecom、CyberAgentなど

べが切立ち位置

- > 基盤提供側として:
 - > 社内のインフラチームで運用保守している
- > 利用者として:
 - > アプリケーションエンジニアがサーバ基盤として使っていく
 - > 社内の基盤/インフラチームも関わる
- > 「自社で」「自分たちのために」運用、利用するひとと してお話しします。
- > ただ、若干、「利用者」寄りになると思います

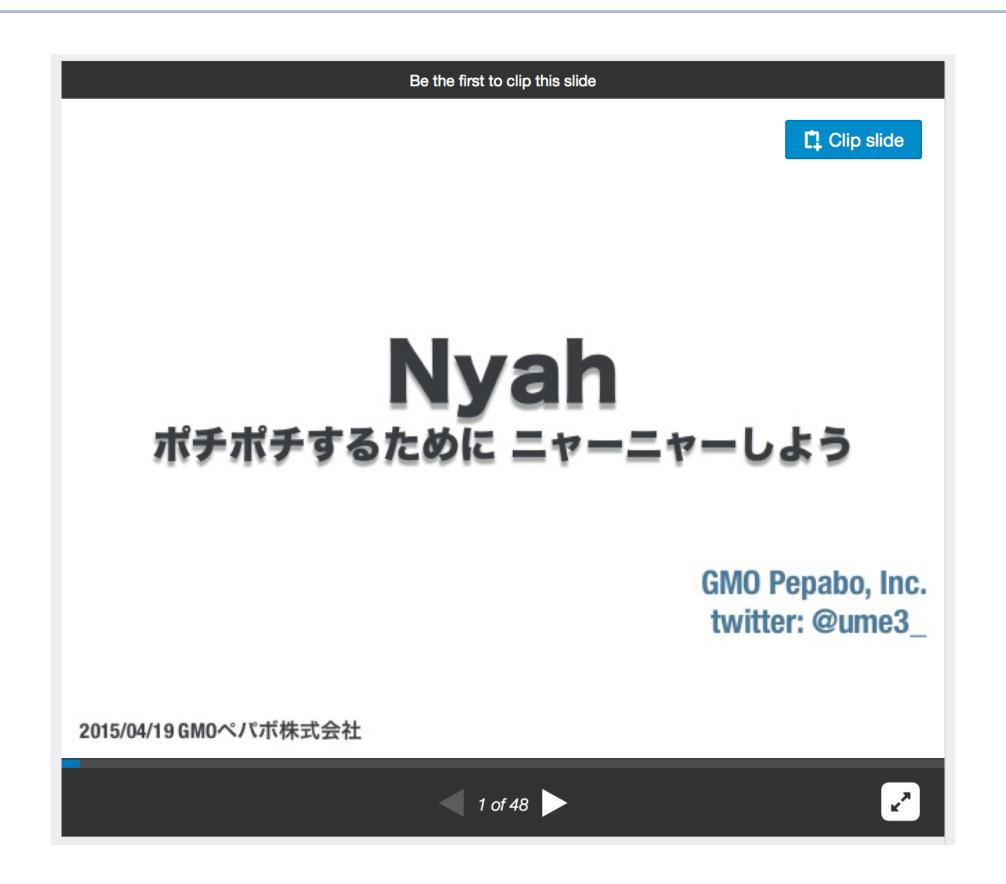
なのでターゲット

- > OpenStack利用者として、フツーにクラウド らしく利用したいひと
 - > →参考になる部分は多いかもしれません
- > OpenStack基盤運用するひと
 - > →利用者はこうなんだな~という感じでお聞きください

OpenStack x Pepabo



ポチポチするために ニャーニャーしよう



> http://www.slideshare.net/ume3_/pb-tc01-bob001

ペパポにおけるOpenStackHacks!



> https://speakerdeck.com/pyama86/pepaboniokeruopenstackhacks

cf. GMOインターネットにおける OpenStack Swiftのサービス化



> http://www.slideshare.net/VirtualTech-JP/conoha-44760338

弊社構成詳細

- >Havanaを利用
 - > グループ内で運用実績があり、アドバイス等聞ける
 - > とはいえ、2年半以上前のリリースということでアップグレードは検討に入っている
- >ネットワークに癖
 - > 主にパフォーマンス的な観点から、SDNにしていない
 - > 組み込みのDHCP/L3 agentは利用不可

構成巡

> Nova: コンピュート/インスタンス管理

> Neutron: ネットワーク

> Glance: イメージ管理

> Keystone: ユーザなどの管理

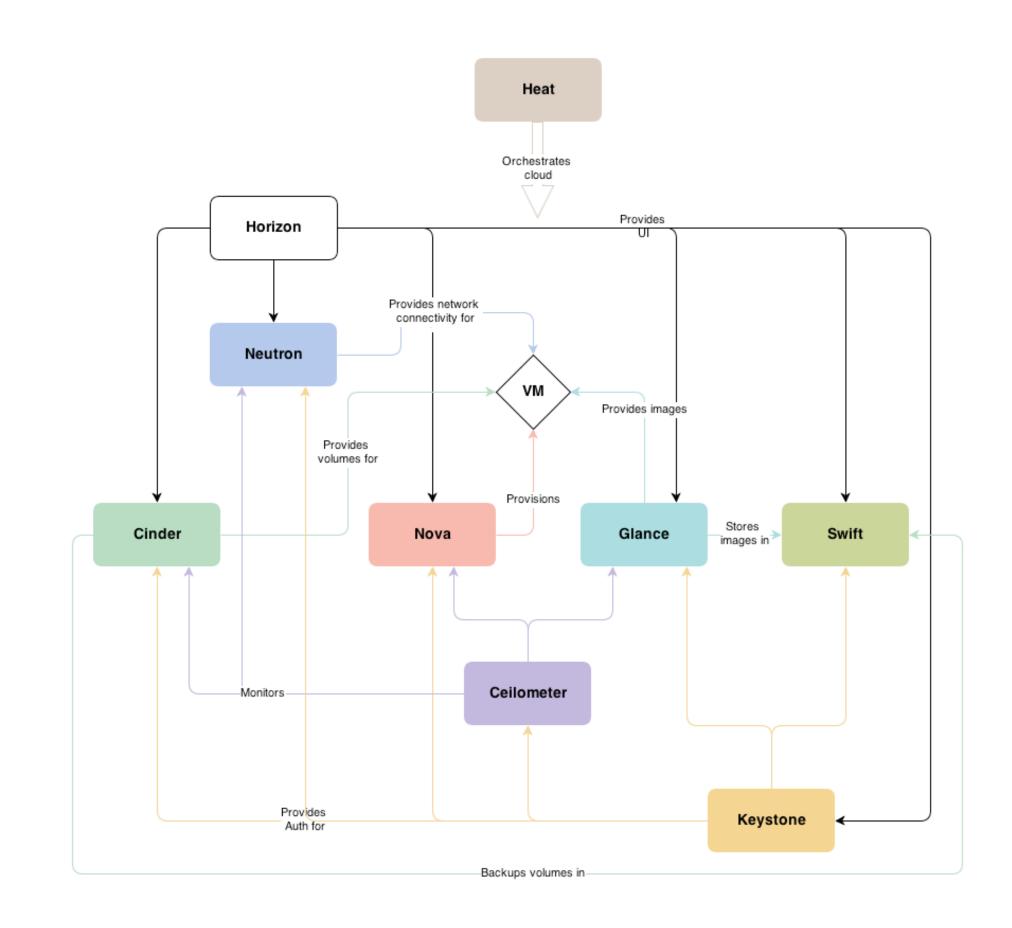
> (Cinder: ブロックストレージ)

> (Swift: オブジェクトストレージ)

> Horizon: 管理画面UI

> Ceilometer: リソース利用状況の管理

> (Heat: オーケストレーション層)

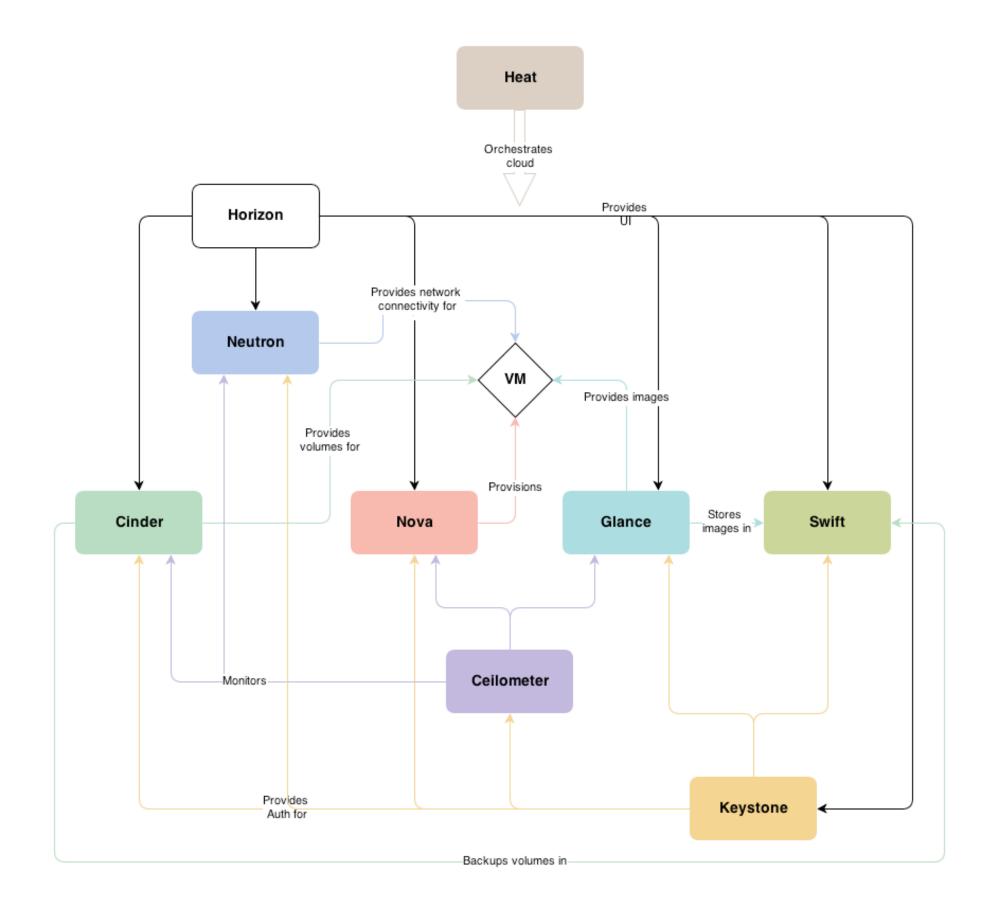


http://thinkit.co.jp/story/2014/06/10/4999

ざっくり言うと

- > Nova:
- > Neutron:
- > Glance:
- > Keystone:
- > (Cinder:)
- > (Swift:)
- > Horizon:
- > Ceilometer:
- > (Heat:)

EC2 (VPC network) AMI IAM **EBS S3** Web console (Billing) CloudFormation



運用に乗ってはや10ヶ月

実際どうなの?

ぶつかった問題

ユーザの管理をどうする・・・

- > ユーザの管理は、セキュリティや監査にも関わる重要なポイント
- > 共通ユーザ? それはちょっと…
- > 個々人でユーザを作るのが理想。でも、それを いい感じのフローにしたい

SecurityGroupの管理を…

- クラウドなので(?)自分でiptables書きたくない。宣言的なセキュリティグループに任せたい。
- > これも割とカオスになりがち。構成管理、アドホックな対応の後始末、分割ルール…

ネットワークの癖

- > いろいろあるが、大きいのが、DHCPは原則使 わない運用
- > あらかじめIPとMac addressがわかっていないとネットに繋がらない

userdataの活用

- > AWS/GCEなどと同様、OpenStackでもcloud-init(*) は利用可能!
- > userdataの概念が利用できる
- > なので
 - > cloud-config形式の設定を生成、そこにネットワークを直書き
 - > 流し込む
- > これでもいい。何も困らない。けど…

userdataの手製が クラウドっぽくない……

先達を見てみる

Codenize.tools

codenize any services, and manage by DSL

About

Codenize.tools manege any services by DSL.

For example, It is possible to manage the Route53 by the following Ruby code:

```
hosted_zone "example.com." do
rrset "example.com.", "A" do
ttl 300
resource_records(
   "127.0.0.1",
   "127.0.0.2"
```

codenize.tools

Why?

"Why?

Idempotency. The service is set according to the definition of code.

It is easy to grasp the service configuration.

The service configuration can be managed by VCS."

– <u>http://codenize.tools/</u>

"Codification is the belief that all processes should be written as code, stored, and versioned. Operations teams have historically relied on oral tradition to pass along the knowledge of how to build, upgrade and triage infrastructure. But information was easily lost or hidden from the people who needed it most. Codification of critical knowledge promotes information sharing and prevents data loss, as any changes to process are automatically stored and versioned."

-Tao of Hashicorp (https://hashicorp.com/blog/tao-of-hashicorp.html)

Codinize/Codification

- > 設定にべき等性が生まれる/自動化できる
- > VCSで変更管理ができる
- > GitHubなどで、設定の全容が容易に 把握/検索できる

AWS OF

- > miam.gem
 - > IAMをRuby DSLで管理/変更できる
- > piculet.gem
 - > Security Group(AWS)をDSLで管理/変更できる

```
IAMfile example
```

```
require 'other/iamfile'
user "bob", :path => "/developer/" do
  login_profile :password_reset_required=>true
  groups(
  policy "bob-policy" do
    {"Version"=>"2012-10-17",
     "Statement"=>
      [{"Action"=>
        "Effect"=>"Allow",
        "Resource"=>"*"}]}
  end
  attached_managed_policies(
    # attached_managed_policy
end
user "mary", :path => "/staff/" do
  # login_profile :password_reset_required=>true
```

tools are for AWS·····

よろしい、ならば 書きましょう

Kaname

kaname

- > https://github.com/yaocloud/kaname
- > @hsbt 作
- > keystoneのユーザと、テナントごとの権限を yamlで記述可能になる

```
antipop:
    email: "antipop@example.com"
    tenants:
        production: "cto"
hsbt:
    email: "hsbt@example.com"
    tenants:
        development: "admin"
        production: "member"
```

Kakine

Kakine

- > https://github.com/yaocloud/kakine
- > これも @hsbt 作……
- > テナント別にSecurityGroupを yamlで記述 それをソースに設定を適用できる

```
app:
  rules:
    - direction: ingress
      protocol: tcp
      port: 443
      remote_ip: 0.0.0.0/0
    - direction: ingress
      protocol: tcp
      port: 80
      remote_ip: 0.0.0.0/0
  description: app rules
rails:
  rules:
    - direction: ingress
      protocol: tcp
      port: 3000
      remote_ip: 0.0.0.0/0
```

要更管理

- > GitHub(Enterprise)のリポジトリで
- > kanameはnyah管理全般プロジェクトを用意、そのリポジトリで
- > kakineはサービスごとに



Codinize/Codification

- > 設定にべき等性が生まれる/自動化できる
- > VCSで変更管理ができる
- > GitHubなどで、設定の全容が容易に 把握/検索できる

Codinize/Codification

- > 設定にべき等性が生まれる/自動
- > VCSで変更管理ができる
- > GitHubなどで、設定の主
 でが容易に 把握/検索できる **誰が**計

誰が誰を変えたか すぐわかる!

コマンドで標準の

手順になり、

間違えない!

PRになるので 検索もできる!

ノベリューだ!

インスタンス立ち上げ

立ち上げ、具体的流れ

- > NeutronのPort (仮想NIC) を作成する
 - > そこに、MACアドレスとIPがアサイン
- > そのPortからMACアドレスとIP情報を取得
- > その情報を元にifcfg-eth0などを作成
 - > userdataのwrite_filesで流し込む
- > Portを紐付けて、nova boot

立ち上げ、具体的流れ

- > NeutronのPort (仮想NIC) を作成する
 - > そこに、MACアドレスとIPがア† OpenStack APIがある
- > そのPortからMACアドレスとIP情報を取得
- > その情報を元にifcfg-eth0などを作成
 - > userdataのwrite_filesで流し込む
- > Portを紐付けて、nova boot

APIで起動できる

APIで取れる

プログラムでつくる

OpenStackにも APIがある

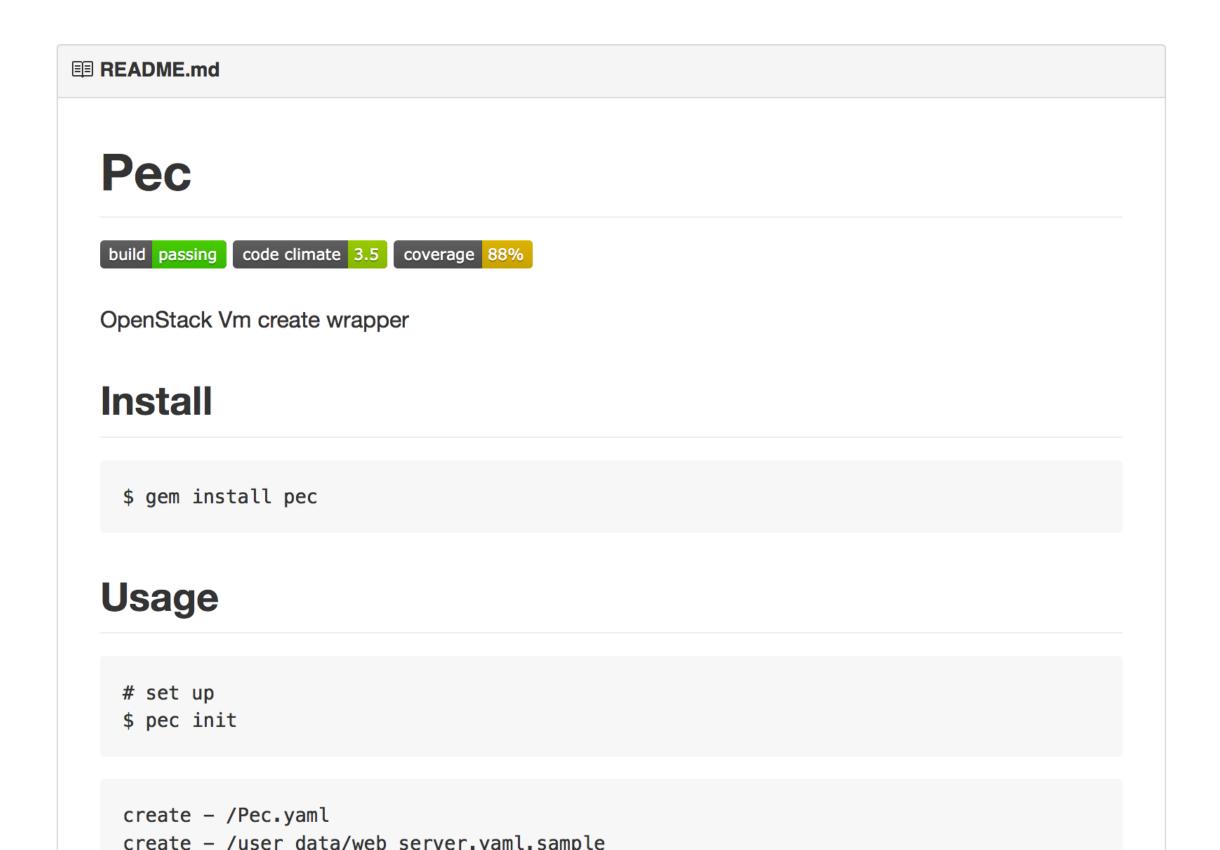
APIがあるから、 プログラムで自動化できる

とりあえず

- > Goで作ってみた
- > nyah-cliという名前 (非公開)

一方その頃

- > 福岡の暑男(?) @pyama86 が
 - > 自分のプロジェクトのためにツールを作っていた……
- > それが pec



https://github.com/yaocloud/pec

- > 作成するインスタンスの情報をyamlで Pec.yaml 記述すると、その通りに作ってくれる
- > ネットワークの情報を記述した場合、 Port作成まで自動でやってくれる

```
# merge of yaml
_default_: &def
 tenant: your_tenant
 image: centos-7.1_chef-12.3_puppet-3.7
 flavor: m1.small
 availability_zone: nova
# vm config
pyama-test001:
  <<: *def
 networks:
   eth0:
     bootproto: static
     allowed_address_pairs:
     - 10.1.1.5/24
     ip_address: 10.1.1.1/24
     gateway: 10.1.1.254
     dns1: 8.8.8.8
     dns2: 8.8.8.8
    eth1:
     bootproto: dhcp
 security_group:
 default
 - ssh
 templates:
 base.yaml
 webserver.yaml
 user_data:
   hostname: pyama-test001
   fqdn: pyama-test001.ikemen.com
    repo_releasever: 7.1.1503
```

Demo

```
[udzura] ~/.ghq/≡
(*'-') <
[udzura] ~/.ghq/
(*'-') < pec up manage
make start manage001.
image is centos-6.6_chef-12.3_puppet-3.7
flavor is m1.medium
availability_zone is nova
port create start : eth0
assgin ip :
port create start : eth1
assgin ip : 10.51.97.15
keypair is sample001
load template manage.yaml
create success! manage001.
[udzura] ~/.ghq/_____
(*'-') < pec status manage
Current machine status:
                                                 m1.medium nova
manage001.
                               BUILD
                                        sqale
                                                                    sample001
                                                                             comp-node000
[udzura] ~/.ghq/
```

pecの付加価値

- > 立ち上げるだけじゃなく、 ロールごとのスペックを構成管理できる
 - > 簡易的なCloudFormation/Terraformといった趣
 - > ロールがわかればだいたいアーキテクチャはわかる
- > やるじゃん……

各プロジェクトに広まった

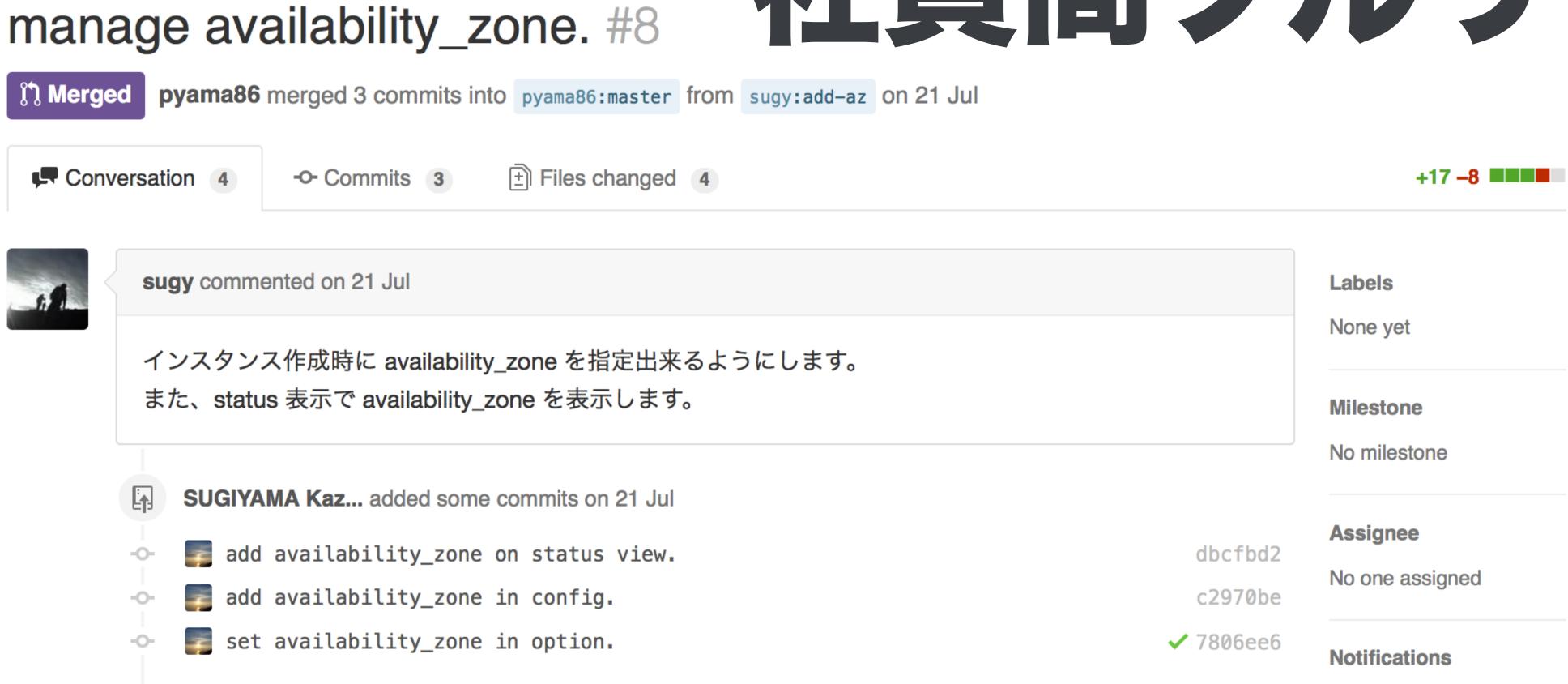
- > ※筆者は最初は自作のnyah-cliで頑張ってました
- > 今は使ってみて便利を感じてます…

自社の知っている人が 作ったOSSなので

貢献のモチベーションが上がる!



★ Star 5 Watch ▼ ₩ Fork 5 社員間プルリ





pyama86 commented on 21 Jul Owner

うおーーー!! 有難うございます! 確認後リリースします。 マージ!

ĺĴ

ılı

You're not receiving notifications from this thread.

2 participants

















055への貢献?

- > あるいはソーシャルコーディング
- > ただやるには結構敷居が高い……
- > なんか意識高そう……

「業務で必要なんで」

- > ちゃんと、オープンソースで公開して
 - > それを自分たちで使って
 - > さらにそれを自分たちで直す
- > Nyah周りで色々作ったことで、この流れを、 後押しできるようになった。
- > これはエンジニアにとって重要なことだと思う

共有の文化 コラボレーションの文化

GitHub:Enterprize

- > ペパポはハードユーザー
- > スーパーハードユーザー
 - > >= 250 users
 - > >= 40 organizations



http://www.slideshare.net/hsbt/github-enterprise-with-gmo-pepabo



di

Issues

Pull requests

#454 opened on 3 Sep by pyama

Labels



We are 社内Social

こまで、まとめ

- > OpenStackを乗りこなすために:
 - > ツールを作る。AWSのものを真似るのも手。
 - > オープンソースで開発する。
 - > 情報を共有する。GHを全力で使う。
- > Be Open to utilize OpenStack!!

end

One More Thing

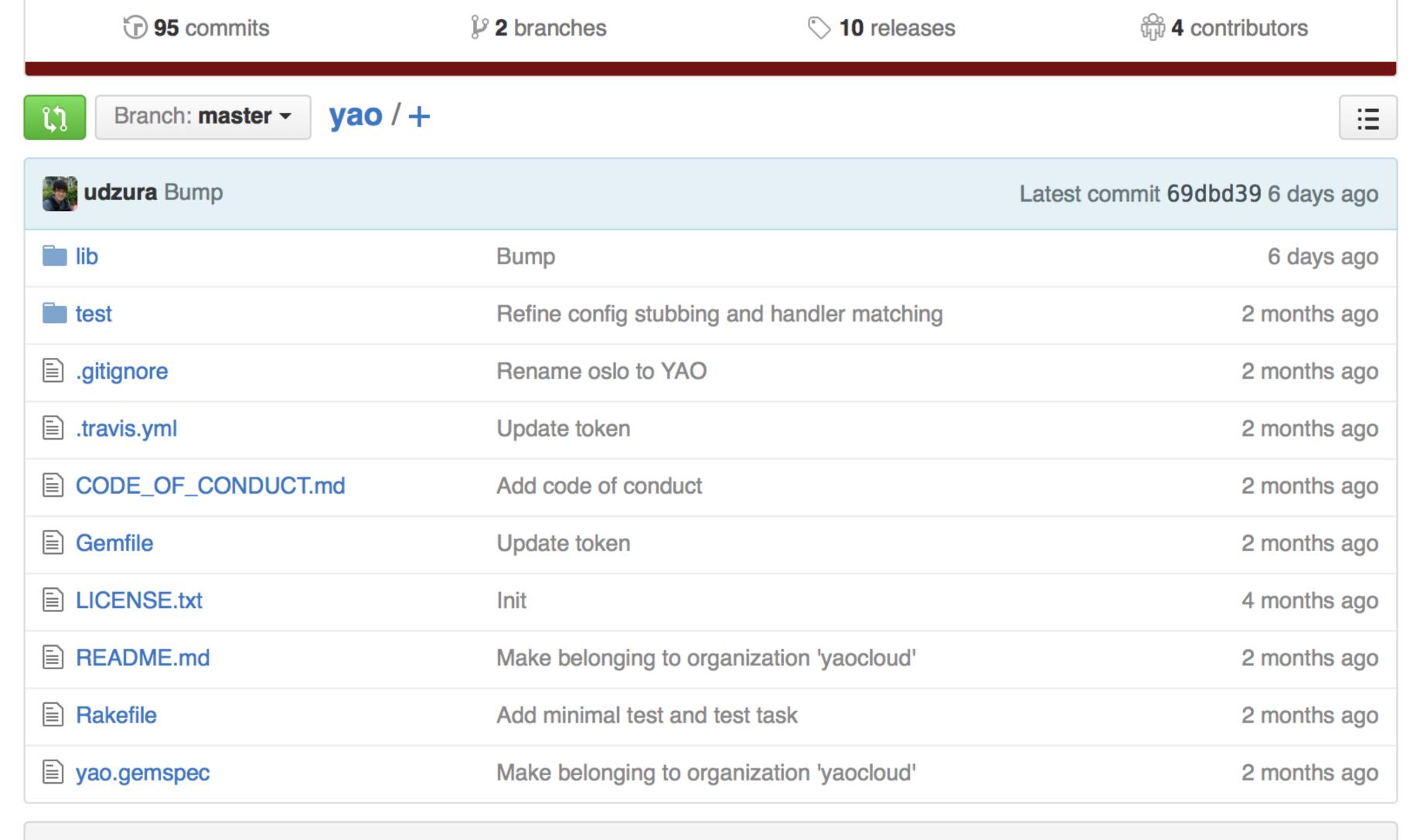
yaocloud/yao

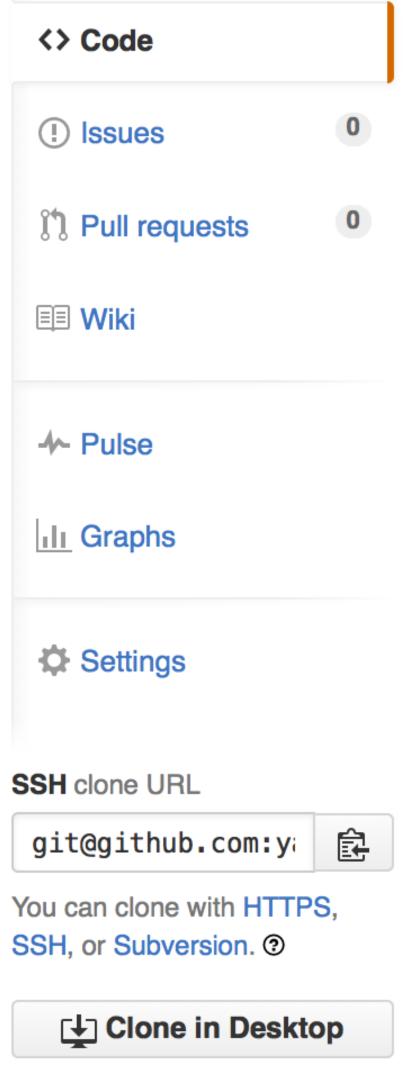
Yet Another OpenStack API Wrapper





The OpenStack API wrapper — Edit





→ Download ZIP

なぜ作ったか?

- > OpenStack系のRubyライブラリ、 フル機能のものは二つ
 - > fog
 - > ruby-openstack

どちも、不満があ

- > fog
 - > http://fog.io/
 - > 複数クラウドのラッパーなので依存が大
 - > しかも、OpenStackの機能だけの切り出しがない(動きはあるが・・・・g-local")
 - > そもそも規模が大きく、動きも遅いように見える。 (PR取り込み後のリリースが遅いなど)
- > ruby-openstack
 - > https://github.com/ruby-openstack/ruby-openstack@cy("fog-terremark")

59

60

61

62

68

69

70

71

76

77

78

79

> 2013年で更新停止、16のPRが放置

```
s.uuu_dependency("ipaddress", "~> 0.5")
 # Modular providers (please keep sorted)
 s.add_dependency("fog-atmos")
 s.add_dependency("fog-aws", ">= 0.6.0")
 s.add_dependency("fog-brightbox", "~> 0.4")
 s.add_dependency("fog-dynect", "~> 0.0.2")
 s.add_dependency("fog-ecloud", "~> 0.1")
 s.add_dependency("fog-google", ">= 0.1.1")
 s.add_dependency("fog-powerdns", ">= 0.1.1
 s.add_dependency("fog-profitbricks")
 s.add_dependency("fog-radosgw", ">= 0.0.2")
 s.add_dependency("fog-riakcs")
 s.add_dependency("fog-sakuracloud", ">= 0.0
 s.add_dependency("fog-serverlove")
 s.add_dependency("fog-softlayer")
 s.add_dependency("fog-storm_on_demand")
 s.add_dependency("fog-vmfusion")
 s.add_dependency("fog-voxel")
 s.add_dependency("fog-xenserver")
 s.add_dependency("fog-aliyun")
 s.add_development_dependency("docker-api",
```

s.add development dependency("fission")

s.add_dependency("fog-core", "~> 1.32")

s dd_dependency("fog-xml", "~> 0.1.1")

_dependency("fog-json")

2370penStackOAPI

> 非常に美しいRESTful API

```
> GET /v2/{tenant_id}/servers
POST /v2/{tenant_id}/servers
DELETE /v2/{tenant_id}/servers/{server_id}
```

- > see http://developer.openstack.org/api-ref.html
 && https://www.conoha.jp/docs/
- > クラウドベンダによっては、かなり厳しいAPIのとこ ろもあるが、これなら……

RUBYGEMS.ORG

欲しいものは、作ればいい。

自分だけのオリジナルgemを作れる。OSSにできる。

日 オリジナル gemを作る

作ってみた所感

授計方針

- > 低依存
 - > 原則、faradayのみに依存
 - > faradayは高機能で、コード削減量が素晴らしいので使う
 - > Golangを書いていた影響はある
- > RESTに沿ってリソースを一気に定義
- > コンポーネントの違いを気にしないで済むように (nova or neutron or ·····)

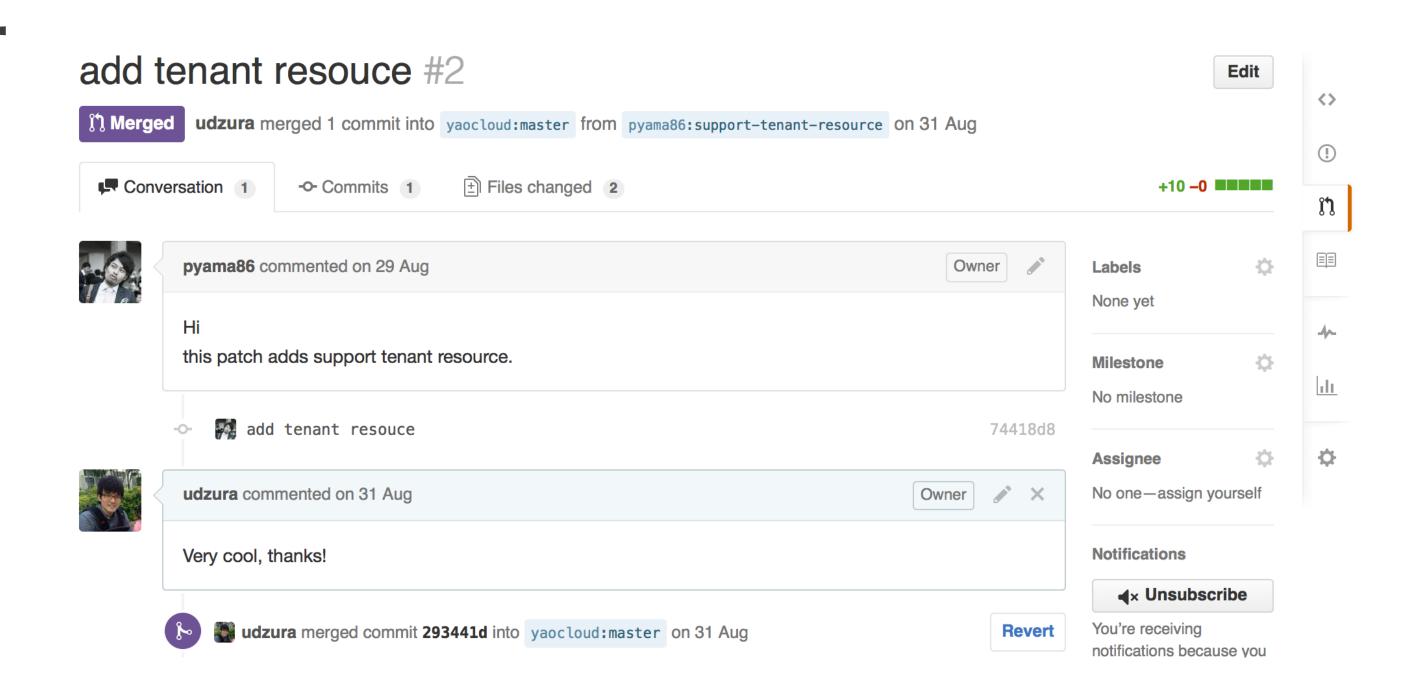
動くところまで、割とすぐできた

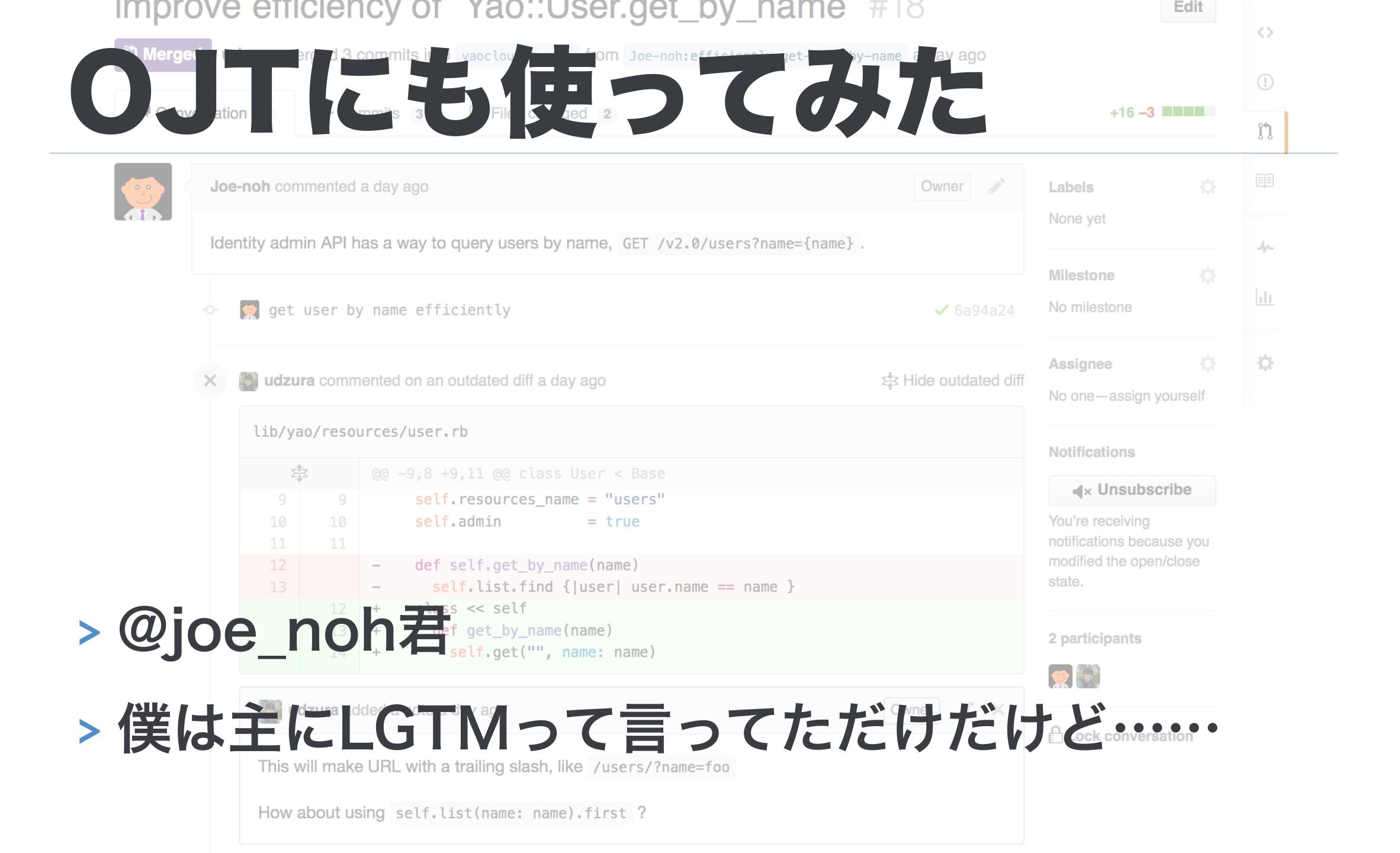
> こういうリソースを定義すればいい

```
lib/yao/resources.rb
                                                                                                             View
  $
           @@ -13,6 +13,7 @@ module Resources
                autoload :Network,
                                            "yao/resources/network"
                                            "yao/resources/subnet"
                autoload :Subnet,
                                            "yao/resources/port"
                autoload :Port,
                                            "yao/resources/tenant"
                autoload :Tenant,
      17
16
      18
              end
18
      19
  $
```

指馬

- > pecに採用された (fog -> yao)
 - > いくつかPRをしてもらった (主にリソース追加)
 - > 問題なく使えている様子
 - 〉依存はもちろん減った
 - > 動作も少し速い? (体感、未検証)





- > あえての車輪の再発明も、条件が整えばアリ。
 - > サポートしてくれるコミュニティ (この場合は社の皆)
 - > ドッグフーディングする気概と体制
- > テストはもっと頑張る必要がある……
 - > APIのテストはwebmockが大変
 - > VCR·····社の内部API名が出てしまうし、など

OpenStackを乗りこなすために

- > 先人から学ぶ
 - > AWS向けのツールを見てみる
- > 社内コミュニティを使う
 - > みんなでツールをOSSで開発する
 - > 相談をワイワイと、バザール的に行う

Rubyはどう絡んだか?

- > 1) Ops向けのツールにもやっぱりRubyは便利
 - > Thorの存在
 - > Faradayの存在
 - > その他gem、特にテストスイートが充実している点
 - > 内部DSLの設計と利用(今回はyamlだが)
 - > 何より、(環境によるが)会社にRuby遣いが多い

Rubyはどう絡んだか?

- > 2) Railsの開発+GitHubが切り開いた ソーシャルコーディングスタイル
 - > みんなフラットに議論する
 - > なんでも共有する、相談する
 - >ツールをオープンにする
 - > コラボレーションの文化を醸成する
 - > これらが「当たり前」の組織を作れるとスピード目

今後の課題

> 自力構築

- > 最新のバージョンにキャッチアップし、現在困っている箇所 を頑張って解決
- >OpenStackコミュニティ自体とのつながり
 - > 社内→社外へ
 - > 地域Ruby meetupほど頻繁じゃない印象
 - > 同時に、地道にツールとワークフローを作ってOSSにしてく

Rubyの力を使って 今後もOpenStackを 乗りこなします!

※ もちろんPythonも 勉強します

ペパポにはOpenStack/Rubyを使う仕事があります

- > 東京/福岡で特にインフラ絶賛募集!
- > リターン大歓迎!
- >ペパランチョンでお話を(会場でも是非)。
 - > https://pepabo.com/recruit/pepaluncheon/?fukuoka



インタビュー、おすすめです



- > mrubyの話も出てきます!
- > http://pepabo.com/recruit/interview/201510 01

afterword

- > 本スライドに出てくる各社/各サービス/各プロダクトについて、ロゴ、名称等それぞれの団体に権利が帰属する場合があります。
- > タイトル画像: public domain
 - > https://pixabay.com/p-492412/?no_redirect